



2021年7月30日

各位

会社名 株式会社トライアイズ
 代表者 代表取締役社長 池田 均
 (コード4840 JASDAQグロース)
 問合せ先 執行役員経理部長 上嶋 悦男
 電 話 03(3221)0211

2021年12月期第2四半期連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2021年2月15日に公表いたしました2021年12月期第2四半期累計期間(2021年1月1日～2021年6月30日)の連結業績予想と実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想との差異

2021年12月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異 (2021年1月1日～平成2021年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	753	137	103	56	7円61銭
実績(B)	716	△0	△48	△76	△10円32銭
増減額(B-A)	△37	△137	△152	△132	—
増減率(%)	△4.9	—	—	—	—
(参考) 前第2四半期実績 (2020年12月期第2四半期)	463	31	4	1	0円19銭

2. 差異の理由

差異が生じた主な理由は以下のとおりであります。

①売上高から営業利益までについて

建設コンサルタント事業においては、工期が延長となった大型案件を取り込めたため、483百万円(前年同期比113.6%増)と当初の計画値375百万円を上回る結果となりましたが、完成案件の長期化に伴い採算性が悪化して原価率は79.4%と、計画値60.5%を上回る結果となりました。経営指導料の配分見直しと固定費削減活動により、販売費及び一般管理費は88百万円と計画値93百万円を下回る結果となったものの、原価率の悪化を賄うには至らず、当第2四半期連結累計期間は11百万円の営業利益と計画値105百万円を下回る結果となりました。

ファッションブランド事業においては、年初からの緊急事態宣言の発令による外出自粛及びセレモニーの中止の影響により主力製品の需要が減少した影響を受け、売上高は134百万円と前年同期を上回る結果となりましたものの、計画値272百万円を大幅に下回る結果となりました。また、売上減少に伴う軽井沢

工場の生産調整の影響を受け原価率が45.6%と、計画値34.6%を上回る結果となりました。販売費及び一般管理費については139百万円とグループ会社間における経営指導料の配分の見直し及びECサイト改良のための投資を積極的に行ったものの、計画値147百万円を下回る結果となりましたが、売上高の減少及び原価率増加を賄うには至らず、65百万円の営業損失と当初の予想利益28百万円を下回り損失となりました。投資事業につきましては、売上高97百万円(計画比100.9%)及び営業利益47百万円(計画比94.9%)と、当初の想定通りに推移いたしました。

以上の結果、売上高は716百万円と計画値753百万円を僅かに若干下回る結果となったものの、原価率が67.4%と計画値47.9%を上回ったことにより、採算性が計画より低下し、経費の低減も原価率上昇を補うには至らず、営業損失0百万円と計画値137百万円を下回り損失に転じました。

②経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益について

営業外損益については、16百万円(計画比99.3%)と概ね計画通りに推移いたしました。営業外費用について、借入金に係る支払利息は42百万円(対計画比110.2%)概ね計画通りの金額となりましたが、投資事業において発生した延滞債権について貸倒引当金を保守的に21百万円設定したことにより営業外費用合計額は64百万円と、計画値40百万円を上回る結果となりました。

この結果、経常損益は48百万円の経常損失と、計画値103百万円を下回り損失に転じました。特別損益2百万円(対計画比144.6%)と概ね計画通りの発生となりました。そのため、税金等調整前四半期純損益は50百万円の損失となり、法人税等26百万円を計上した結果、76百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失と、計画値56百万円を大幅に下回り純損失に転じました。

3. 通期業績予想について

前述のとおり、建設コンサルタント事業売上高は当初の予測を上回る結果となったほか、現状完成時期が先送りとなった案件及び完成までに長期を要する長期案件は発生していないため、採算性は改善の傾向にあります。当初の予測通りの売上を計上することにより、下半期において原価率は改善する予定であります。ファッションブランド事業においても需要及び生産高も回復基調にあり、下期の生産拡大と売り上げ増加により、原価率が改善し、採算性が向上すると予測しています。また、投資事業の収益物件は堅調に稼働しており、下期も同様の推移が見込まれます。

そのため、当第2四半期では計画値と実績に差異が発生したものの、下期における収益性の回復を見込んでいるため、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、当初の予測通りであると判断しております。

2021年2月15日に公表いたしました連結業績予想では、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は当期上期まで継続し、下期より回復基調に転じると判断しております。現状からはこの予測に変更はありません。そのため、現時点におきまして連結業績予想に変更はありません。なお、業績予想へ影響を与える状況・事象が発生し、これにより通期業績予想を修正する場合には速やかにお知らせいたします。

以上

(ご参考) 2021年12月期連結業績予想(2021年2月15日公表)

単位:百万円

	連結売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
2021年12月期連結業績予想	1,404	253	181	110	13円88銭